Manual of Botany. ed. **8**: 1062 (1950) で *E. alpinum* L. (*E. lactifolium* Hauskn.) と *E. anagallidifolium* Lam. を別の種類として記述している．Hultén, Fl. Alaska (1968) でも，P. H. Raven の Fl. Europaea. **2**: 310, 311 (1968) でも両者を別種とする見解である．*E. lactifolium* と *E. alpinum* の差異は量的で，前者が環境の良い場所に，後者が厳しい環境に生育することからの相違ではないかと思われる．日本のものは両者の中間的な形態である．Hoch 氏が *E. anagallidifolium* Lam. と標本上に手書した，北アルプスの燕岳のものは，シロウマアカバナの小型のものであることからも，両者を別種とする考えには疑問がある．しかし，これはヨーロッパやアメリカで解決すべき問題で，日本で議論することは無理である．両者を別種とする場合 *E. alpinum L.* = *E. lactiflorum* Hauskn. として扱われている．両者はほぼ同じ分布をしているが，*E. anagallidifolium* の方が広く分布している．両者を同一種類とすれば，アジア近辺ではシベリア，カムチャッカ，アラスカ，アリューシャンに広く分布することになり，シロウマアカバナはその延長線上にあることになる．

**Epilobium alpinum** L., Sp.: 348 (1753), p. p.
*Epilobium lactiflorum* Hauskn. in Oestr. Bot. Zeitsh. **29**: 84 (1879).
*Epilobium shiroumense* Matsum. & Nakai in Bot. Mag. Tokyo **22**: 154 (1908); H.Hara in J. Jpn. Bot. **18**: 245 (1942); Kitam. & Murata, Col. Ill. Herb. Pl. Japan 2: 40 (1961); Ohwi, Fl. Jap. ed. **2**: 954 (1975); Kitag. in Satake & al., Wild Flow. Japan, Herb. Pl. **2**: 266 (1982), **syn. nov.**

(東京都中野区[redacted])

## アカミノイヌツゲ千島に分布（山崎　敬）

## Takasi YAMAZAKI: *Ilex sugerokii* Maxim. var. *brevipedunculata* (Maxim.) S.Y.Hu Is Newly Found in the Kuriles (Isl. Etorofu)

東京大学に保存されている古い標本を整理したところ千島からアカミノイヌツゲ *Ilex sugerokii* Maxim. var. *brevipedunculata* (Maxim.) S.Y.Huが採集されているのを見つけた（択捉島，K. Kondo, Jul. 14-15 1927, no. 2275, TI, TNS）．アカミノイヌツゲは本州中部以北，北海道に分布していて，従来の北限は知床半島であったが，南千島の択捉島まで広がっていることになった．

(東京都区[redacted])